

焼岳の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

焼岳では、22日09時頃から山頂の北西 1 km から 2 km 付近で海面下約 3 km とやや深いところを震源とする地震活動が活発化していますが、25日以降地震活動は低下してきています。

山頂付近の浅い場所で発生する低周波地震や火山性微動は観測されていません。また、地殻変動や噴煙の状況に特段の変化はありません。

この地震に関連して浅部の火山活動の活発化を示す現象は認められていません。

【防災上の警戒事項】

山頂付近では噴気や火山ガスの噴出に注意してください。

今後の活動の推移に注意してください。

活動概況

22日09時頃から、山頂の北西 1 km から 2 km 付近で海面下約 3 km とやや深いところを震源とする地震活動が活発化していますが、25日以降減少してきています。やや振幅の大きな（南峰南東観測点で $30 \mu\text{m/s}$ 以上）地震は、22日に3回、23日に299回、24日に1206回、25日に532回、26日14時までに95回です。また、高山市奥飛騨温泉郷栃尾で23日から本日14時までに震度1以上の地震を44回（うち震度2が6回）観測しています。

山頂付近の浅い場所で発生する低周波地震や火山性微動は観測されていません。また傾斜計による観測でも山頂方向の隆起は認められません。監視カメラによる観測でも噴気や熱異常域に特段の変化は認められません。

以上のことから、この地震に関連して浅部の火山活動の活発化を示す現象は認められていません。

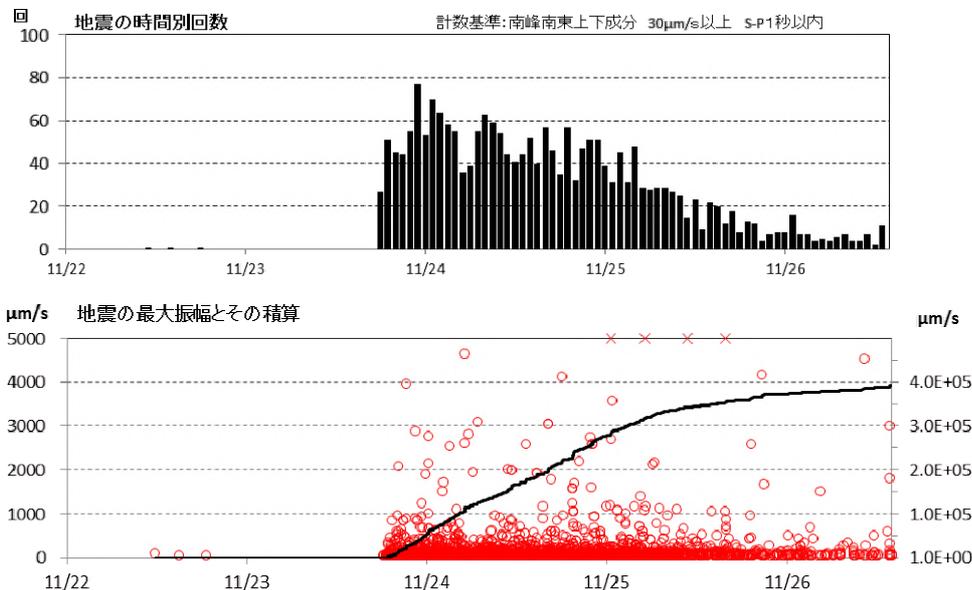
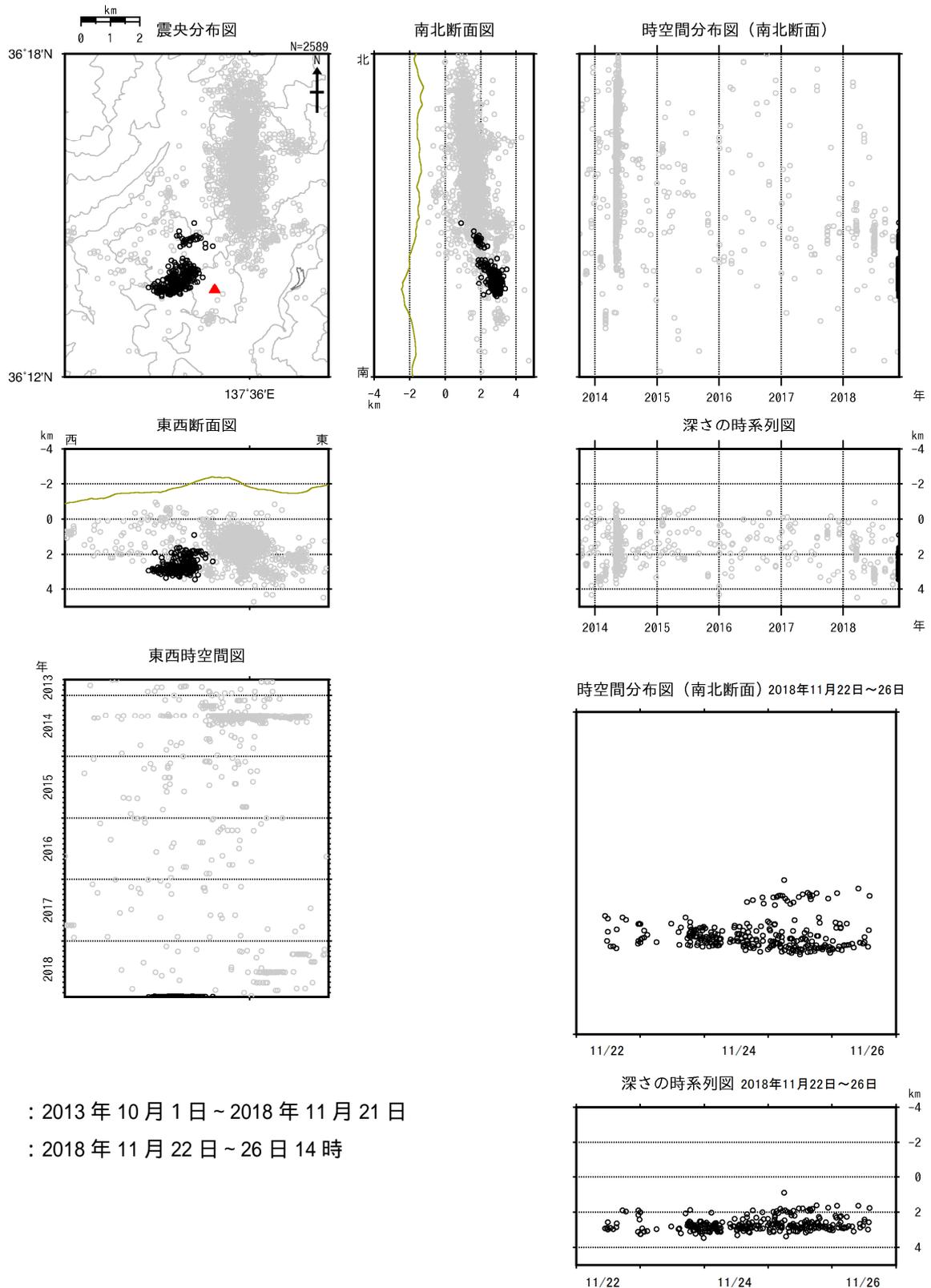


図1 焼岳 やや振幅の大きな地震の時間別回数と振幅（2018年11月22日～26日14時）
：最大振幅（左軸） ×：最大振幅振り切れ（左軸） 実線：最大振幅の積算（右軸）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧できます。

この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』『数値地図 25000(行政界・海岸線)』を使用しています(承認番号 平 29 情使、第 798 号)。



: 2013年10月1日~2018年11月21日
: 2018年11月22日~26日14時

図2 焼岳 震源分布図(2013年10月1日~2018年11月26日14時)
山頂の北西1kmから2km付近で海面下約3kmを震源とする地震活動が継続しています。24日頃から北側2km付近で海面下約2kmを震源とする地震も発生しています。

震源計算方法は2017年8月1日に変更しています。

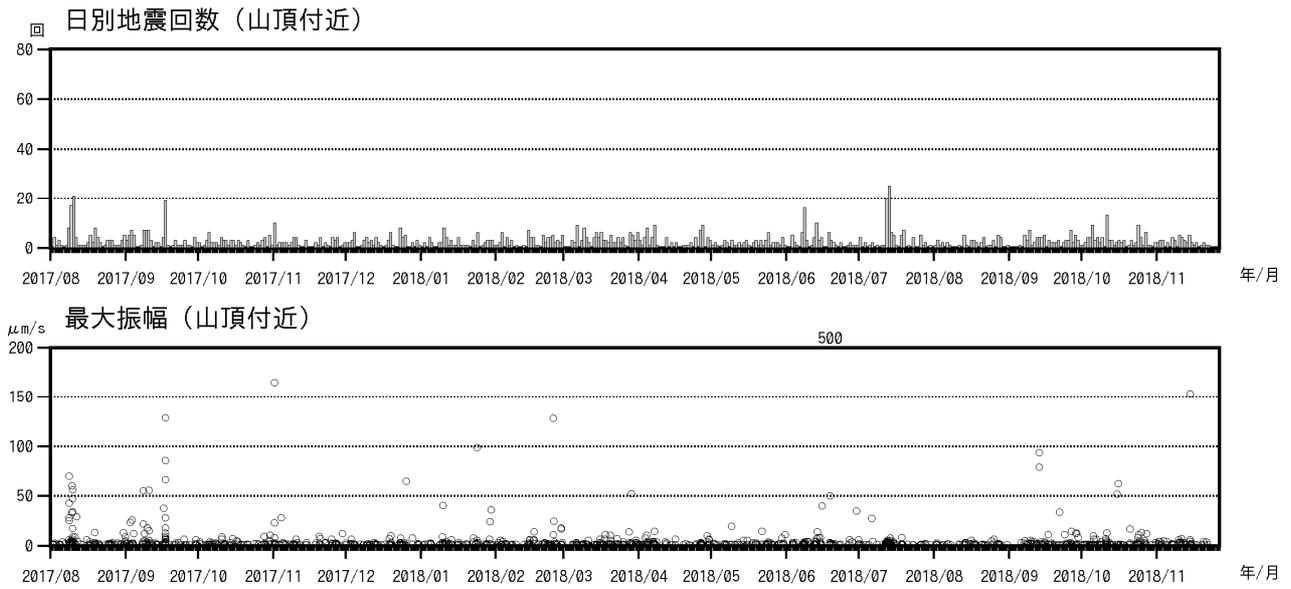


図3 焼岳 山頂付近で発生した地震の回数と振幅(2017年8月1日～2018年11月26日14時)

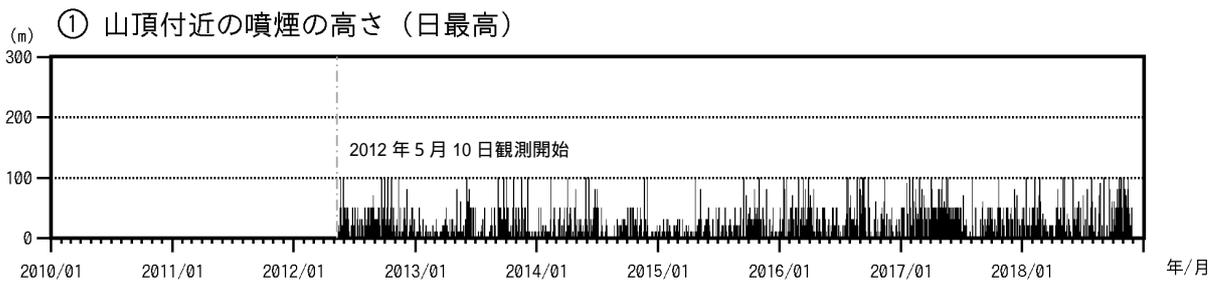


図4 焼岳 日最高噴煙(2010年10月1日～2018年11月26日14時)



図5 焼岳 山頂部及び北東斜面の状況(2018年11月26日13時)

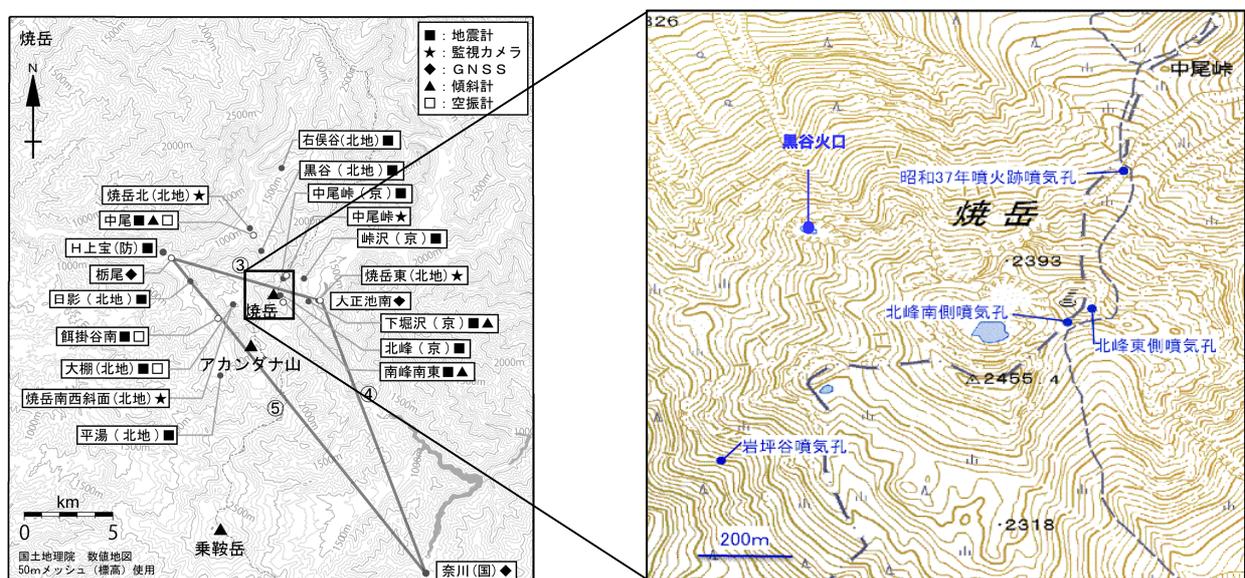


図6 焼岳 観測点配置及び噴気孔位置